

2018年1月15日

# 国立病院機構 別府医療センター

## 小児科・NICU 2017年 年報



別府医療センター 小児科

## 1. 2017年 小児科入院統計

- 1) 入院数と転帰 . . . . . 4
- 2) 月別の入院数 . . . . . 4
- 3) 時間帯別の入院数 . . . . . 4
- 4) 年齢別の入院数 . . . . . 5
- 5) 入院数の年次推移 . . . . . 5
- 6) 入院患者の疾病区分 . . . . . 6
- 7) 救急車の受入数 . . . . . 7
- 8) 人工呼吸管理症例 . . . . . 7
- 9) 院内手術症例 . . . . . 7
- 10) 死亡症例 . . . . . 7

## 2. 2017年 小児科外来統計

- 1) 外来患者数 . . . . . 8
- 2) 外来患者数の年次推移 . . . . . 8
- 3) 紹介患者数の年次推移 . . . . . 8
- 4) 紹介元医療施設と紹介患者数 . . . . . 9

## NICU（新生児集中治療室）

### 3. 2017 年 NICU 入院統計

- 1) 入院、転帰 . . . . . 10
- 2) 在胎週数、出生体重 . . . . . 10
- 3) 呼吸管理症例 . . . . . 11
- 4) 院内手術症例 . . . . . 11
- 5) 入院数等の年次推移 . . . . . 11
- 6) Category 別の推移 . . . . . 12
- 7) 他院への転院症例 . . . . . 13
- 8) 新生児用救急車の出動形態 . . . . . 13
- 9) 新生児用救急車の出動先 . . . . . 13
- 10) 死亡症例 . . . . . 13

### 4. 研究業績 . . . . . 14

### 5. 総評 . . . . . 15

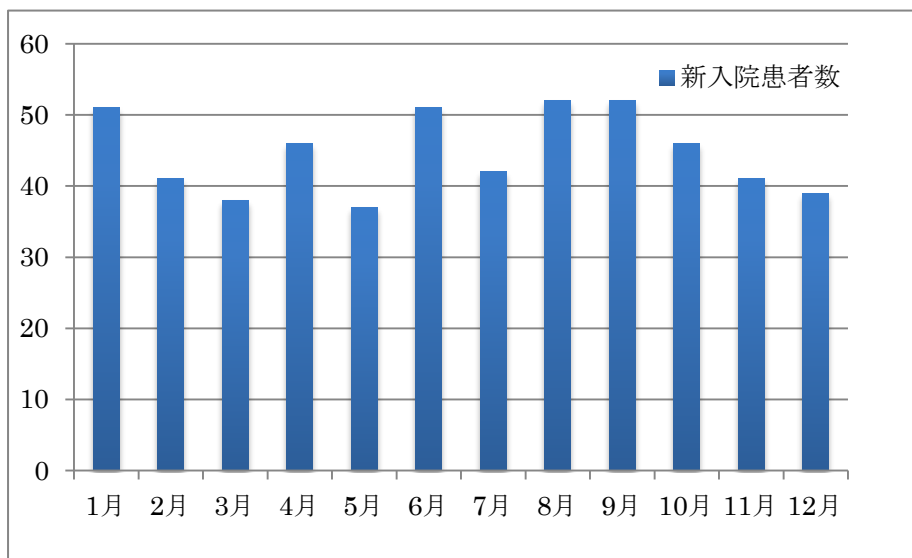
- 1) 2017 年の所感
- 2) 2018 年の目標

## 1. 2017年 小児科入院統計

### 1) 入院数と転帰

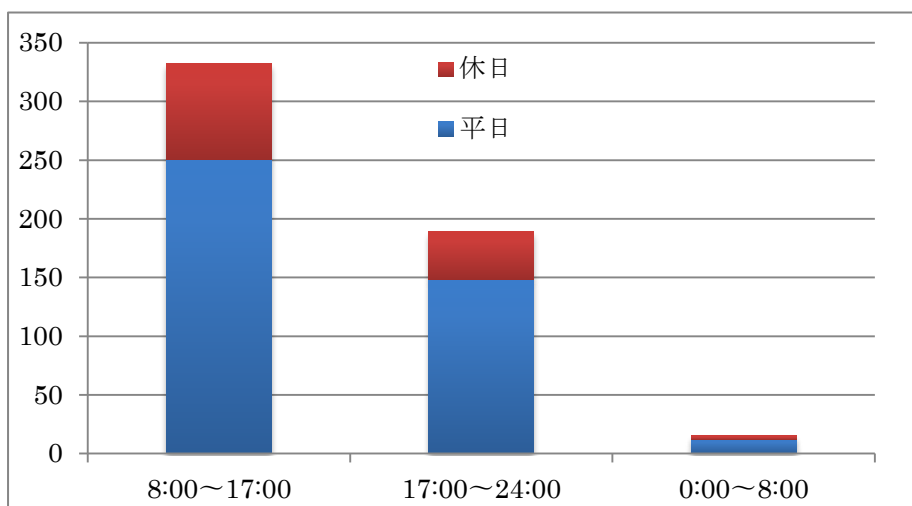
入院		死亡
入院総数	717	0
小児科	538 (75%)	0
NICU	179 (25%)	0
生存退院	717	死亡退院 0 (剖検数 0)

### 2) 月別の入院数



※ NICU 入院患者は除く

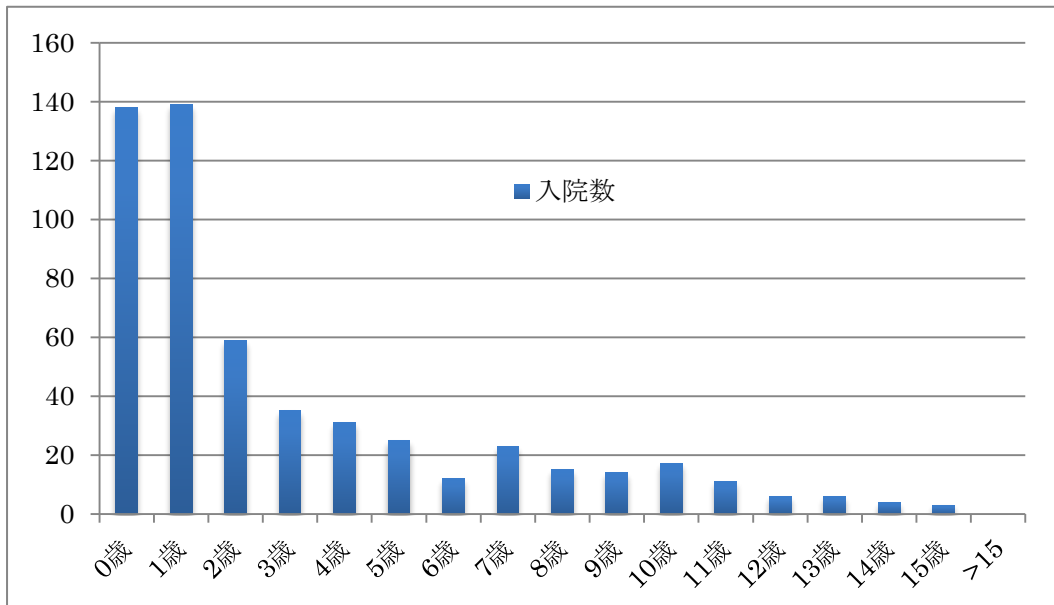
### 3) 時間帯別の入院数



8:00~17:00 332人 (62%)、17:00~24:00 189人 (35%)、0:00~8:00 15人 (3%)

※ NICU 入院患者は除く

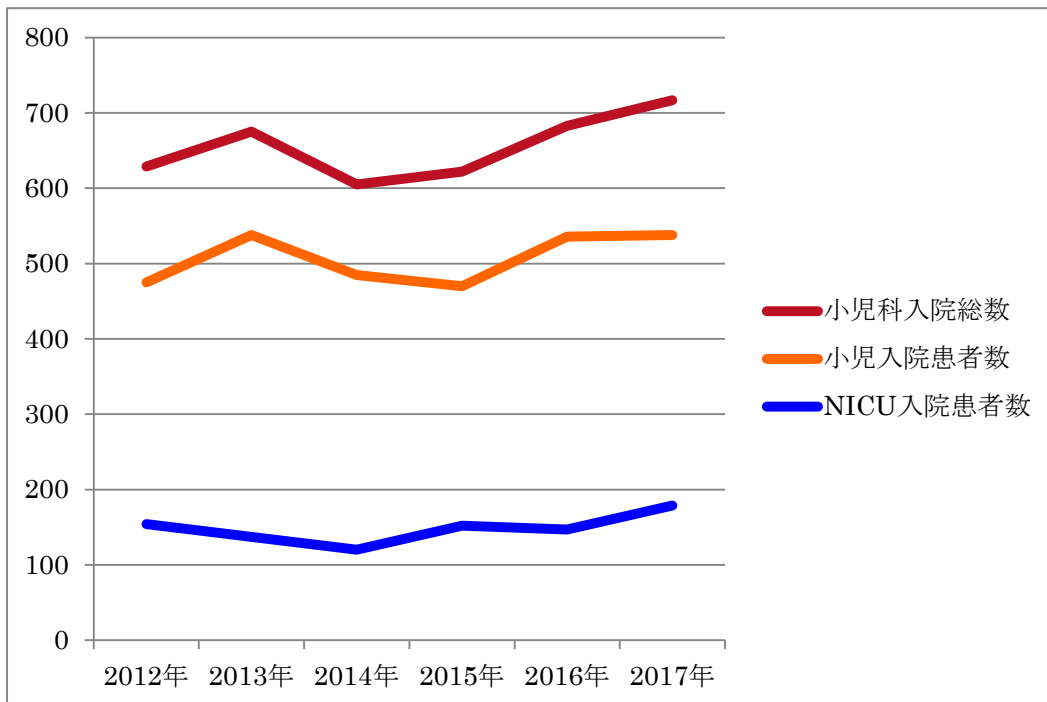
4) 年齢別の入院数



※ NICU 入院患者は除く

5) 入院数の年次推移

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
小児入院患者数	475	538	485	470	536	538
NICU 入院患者数	154	137	120	153	147	179
小児科入院総数	629	675	605	623	683	717



6) 入院患者の疾病区分

疾病区分	入院数	主な疾患内訳	症例数
感染症	330	RSウイルス感染症	74
		急性上気道炎(咽頭・扁桃炎含む)	40
		急性気管支炎・細気管支炎	34
		急性肺炎	30
		その他の原因による急性胃腸炎	25
		尿路感染症	18
		ヒトメタニューモウイルス感染症	12
		アデノウイルス感染症	12
		ロタウイルス胃腸炎	9
		インフルエンザ(A型・B型)	9
		急性喉頭炎	8
		肺炎マイコプラズマ感染症	7
		無菌性髄膜炎	7
		ノロウイルス胃腸炎	6
		新生児感染症	5
		突発性発疹症	4
		伝染性単核症	3
		ヘルペス性歯肉口内炎	3
		毒素性ショック症候群	2
		その他	22
神経・精神疾患	39	熱性けいれん	21
		てんかん	9
		けいれん重積	3
		胃腸炎関連けいれん	3
		その他の無熱性けいれん	1
		高血圧性脳症	1
アレルギー性疾患	41	急性小脳炎	1
		気管支喘息発作	32
		アナフィラキシーショック	7
		アトピー性皮膚炎	1
川崎病・自己免疫/炎症性疾患	39	Stevens-Johnson症候群	1
		川崎病	32
		IgA血管炎	5
内分泌・代謝性疾患	5	PFAPA症候群	2
		アセトン血性嘔吐症	4
消化器疾患	30	副甲状腺機能低下症	1
		腸重積症	13
		急性虫垂炎	13
		腸閉塞	2
		Hirschsprung病	1
呼吸器疾患	6	Mallory-Weiss症候群	1
		慢性呼吸不全の急性増悪	5
血液・悪性腫瘍	4	緊張性気胸	1
		血球貪食性リンパ組織球症	2
		特発性血小板減少性紫斑病	1
事故・外傷・中毒	22	特発性好中球減少症	1
		異物誤飲	5
		外傷性頭蓋内出血	4
		熱傷	4
		脳震盪	4
		一酸化炭素中毒	1
その他	22	その他	4
		新生児黄疸	6
		哺乳・摂食障害	4
		無呼吸発作	2
計	538	その他	10
		計	538

※ NICU 入院患者は除く

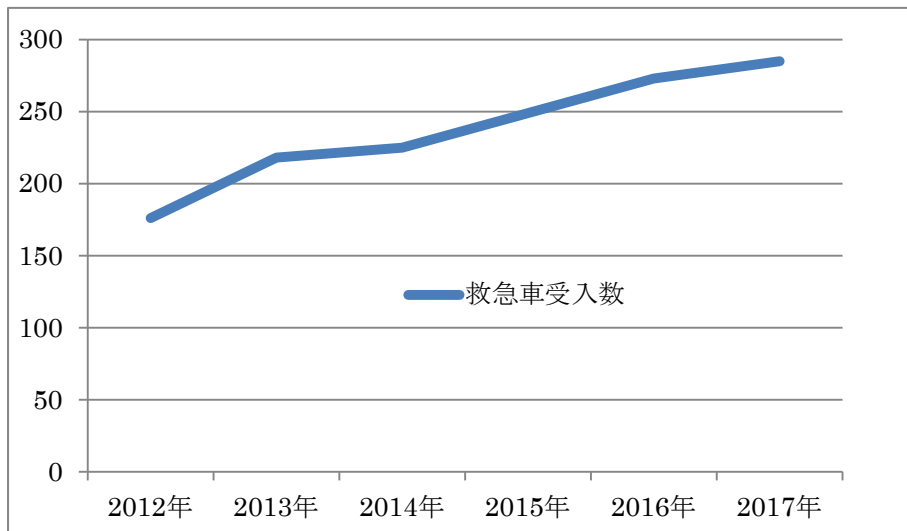
※ 診断名が重複する場合は入院主病名を選択した

7) 救急車の受入数

月別受入数（小児科）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
入院管理	3	5	5	4	0	6	7	5	1	4	5	4	49
外来管理	16	17	19	20	23	18	28	34	16	15	11	19	236
計	19	22	24	24	23	24	35	39	17	19	16	23	285

受入数の年次推移



8) 人工呼吸管理症例

年齢	診断名
7歳	緊張性気胸 Myotubular myopathy

※Nasal high flow は除く

9) 院内手術症例（小児科から依頼した手術症例）

診断	術式	例数	手術担当科
急性虫垂炎	虫垂切除術	9	消化器外科
菊池病	頸部リンパ節生検	1	耳鼻咽喉科
滲出性中耳炎	鼓膜チューブ留置術	1	耳鼻咽喉科
停留精巣	精巣固定術	1	泌尿器科
精巣捻転	精巣固定術	1	泌尿器科
真性包茎	包皮切開術	1	泌尿器科
先天性表皮水疱症	指癒着拘縮解除術	1	形成外科
緊張性気胸	ブラ結紮術	1	呼吸器外科
腸重積	空気整復術	9	小児科

10) 死亡症例

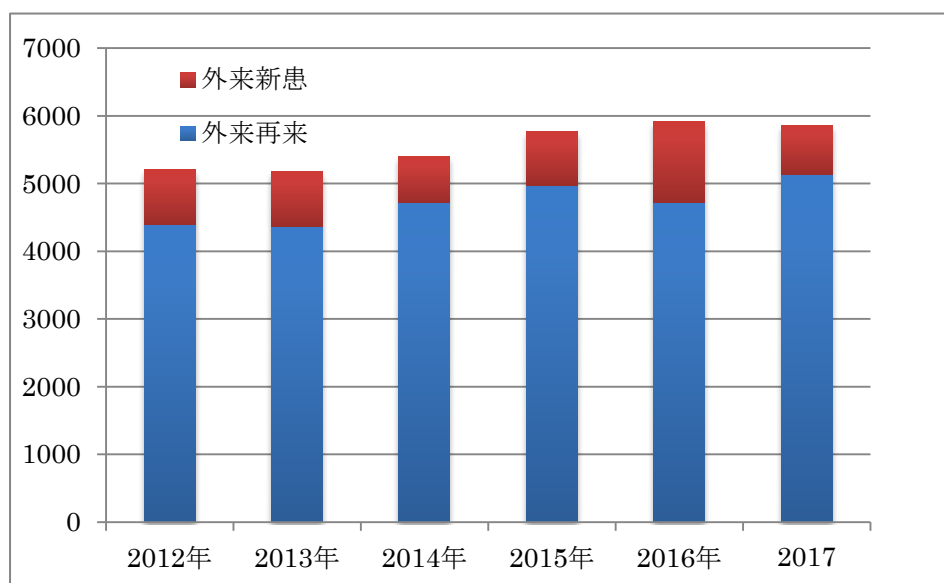
なし

## 2. 2017年 小児科外来統計

### 1) 外来患者数

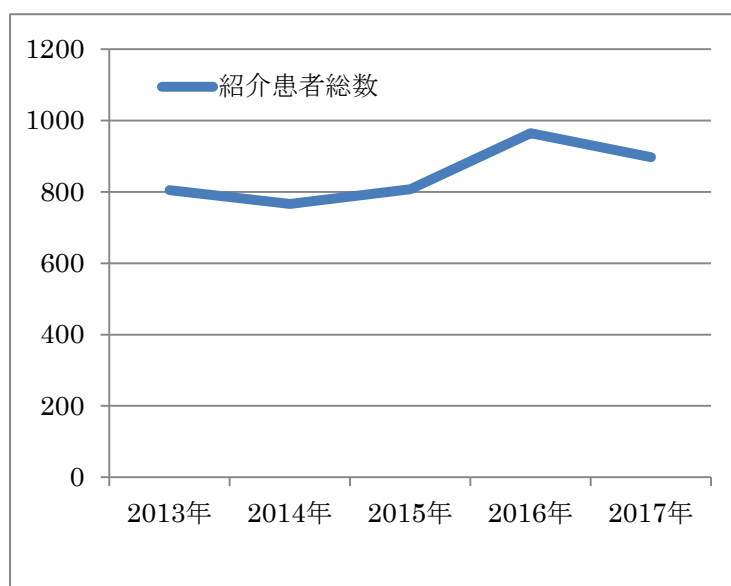
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
新規外来患者数	59	63	68	64	56	54	78	75	43	62	44	56	722
外来患者総数	485	503	649	447	443	477	494	552	466	447	413	487	5863

### 2) 外来患者数の年次推移



### 3) 紹介患者数の年次推移

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
紹介患者総数	805	766	807	964	897





## 4) 紹介元医療施設と紹介患者数

地域	地域別紹介患者数	紹介元医療施設	紹介患者数	
大分県	別府市	710	松本小児科医院	326
			松井小児科医院	107
			古城小児科医院	90
			別府市夜間こども診療所	63
			あおい産婦人科	34
			衛藤小児科医院	27
			岩永レディースクリニック	14
			河野小児科医院	11
			別府発達医療センター	9
			鶴見病院	8
			松岡産婦人科医院	7
			矢田こどもクリニック	6
			西別府病院	4
			さとう小児科医院	3
		新別府病院	1	
	日出町	89	てしまこどもの杜クリニック	54
			矢野小児科医院	32
			その他	3
	杵築市	33	伊藤小児科循環器科医院	15
			みやうちウィメンズクリニック	6
			くりやまレディースクリニック	6
友岡医院			2	
杵築市立山香病院			2	
その他			2	
国東市	11	国東市民病院	7	
		その他	4	
東国東郡	3	姫島村国民健康保険診療所	3	
宇佐市	12	宇佐レディースクリニック	8	
		佐藤第二病院	4	
大分市	19	大分こども病院	14	
		大分県立病院	5	
中津市	4	中津市立中津市民病院	3	
		おだクリニック	1	
由布市	8	大分大学医学部付属病院	7	
		湯布院病院	1	
豊後高田市	1	玄々堂高田病院	1	
玖珠町	1	荒木医院	1	
福岡県	4		4	
その他県外	2		2	
		計	897	

※ 新生児搬送を除いた小児科紹介患者数

### 3. 2017年NICU入院統計

#### 1) 入院、転帰

##### 入院と転帰

入院		死亡			
入院総数	179		0	0%	
院内出生	134	75%	0	0%	
院外出生	45	25%	0	0%	
(再入院)	(0)		(0)		
生存退院	179	100%	死亡退院	0	0%

#### 2) 在胎週数、出生体重

##### 在胎週数

週数 (wks)	全入院		院内		院外		院外出生児 の割合
	生存	死亡	生存	死亡	生存	死亡	
26	0	0	0	0	0	0	
27	0	0	0	0	0	0	
28	1	0	1	0	0	0	0%
29	0	0	0	0	0	0	
30	1	0	1	0	0	0	0%
31	2	0	1	0	1	0	50%
32	3	0	3	0	0	0	0%
33	8	0	8	0	0	0	0%
34	10	0	8	0	2	0	20%
35	27	0	24	0	3	0	11%
36	23	0	21	0	2	0	9%
37	33	0	26	0	7	0	21%
38	28	0	22	0	6	0	21%
39	17	0	7	0	10	0	59%
40	21	0	11	0	10	0	48%
41	5	0	1	0	4	0	80%
42	0	0	0	0	0	0	
計	179	0	134	0	45	0	25%

### 出生体重

出生体重 (g)	全入院		院内		院外		院外出生児 の割合
	生存	死亡	生存	死亡	生存	死亡	
500-749	1	0	1	0	0	0	0%
750-999	0	0	0	0	0	0	
1000-1499	6	0	6	0	0	0	0%
1500-1999	14	0	13	0	1	0	7%
2000-2499	55	0	49	0	6	0	11%
2500-2999	49	0	31	0	18	0	37%
3000-3499	45	0	28	0	17	0	38%
3500-	9	0	6	0	3	0	33%
計	179	0	134	0	45	0	25%

### 3) 呼吸管理症例

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
呼吸管理総数	21	28	18	15	20	26	28
IMV/HFV 単独	3	2	2	2	2	1	1
IMV/HFV + nasal CPAP	7	9	2	5	7	3	11
nasal CPAP 単独	11	17	14	8	11	22	16

IMV ; Intermittent Mandatory Ventilation (間欠的強制換気)

HFV ; High Frequency Ventilation (高頻度人工換気)

nasal CPAP ; nasal Continuous Positive Airway Pressure (経鼻的持続陽圧呼吸)

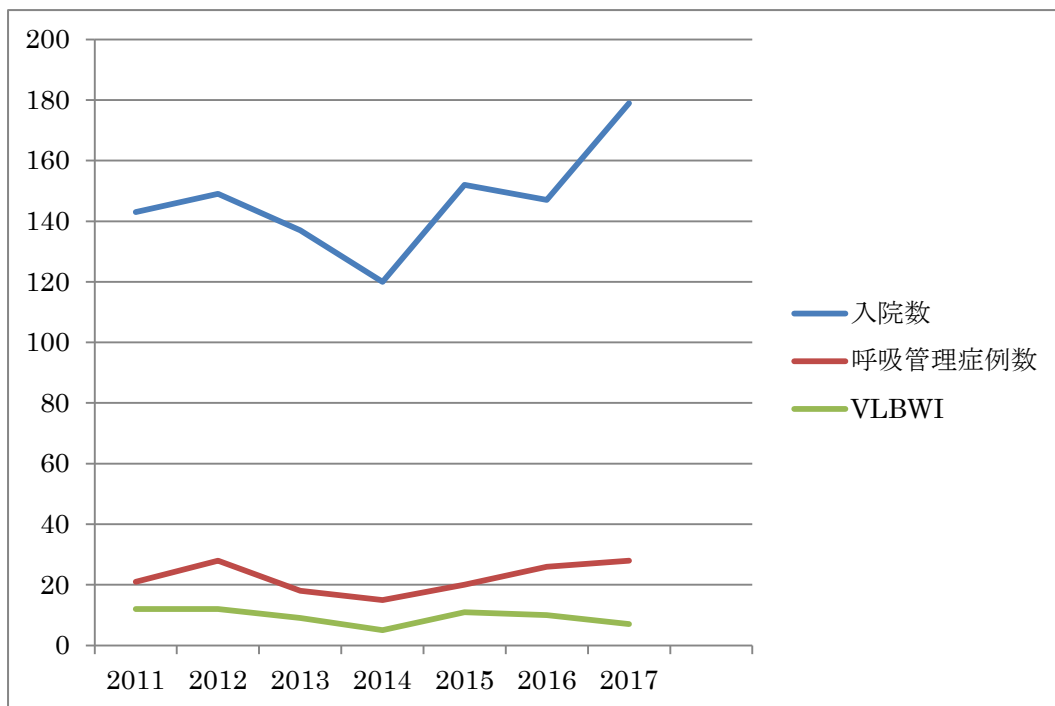
### 4) 院内手術症例

なし

### 5) 入院数等の年次推移

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
入院数	143	149	137	120	152	147	179
呼吸管理症例数	21	28	18	15	20	26	28
VLBWI	12	12	9	5	11	10	7

VLBWI ; Very Low Birth Weight Infant (極低出生体重児)



VLBWI ; Very Low Birth Weight Infant (極低出生体重児)

#### 6) Category 別の推移

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
染色体異常	2	1	1	2	5	1	0
奇形症候群	5	10	2	0	6	7	3
先天性心疾患	7	3	7	9	6	1	3
外科的疾患	2	1	1	3	2	1	1
VLBWI	12	11	9	5	10	10	7
LBWI	58	72	51	52	64	52	67
新生児仮死	5	2	9	7	4	5	5
頭蓋内出血	0	0	0	0	0	0	3
神経疾患	1	1	0	0	0	0	1
感染症	4	1	3	1	2	3	6
呼吸障害	12	11	9	11	10	13	20
Low Risk	29	27	27	23	31	38	45
その他	6	9	18	7	12	16	18
再入院	3	5	0	0	1	0	0
計	146	154	137	120	153	147	179

VLBWI ; Very Low Birth Weight Infant (極低出生体重児)

LBWI ; Low Birth Weight Infant (低出生体重児)

## 7) 他院への転院症例

診断	出生場所	在胎週数	出生体重	転院先
先天性回腸狭窄	院内	36	2272	大分県立病院
腸閉塞症	院外	37	2718	大分県立病院
血球貪食性リンパ組織球症	院内	38	2666	九州大学病院
有機酸代謝異常症の疑い	院外	39	2512	大分大学医学部附属病院
完全大血管転位症	院内	40	3154	福岡市立こども病院

## 8) 新生児用救急車の出動形態

	出動回数	搬送入院	立会いのみ	当院から転院	三角搬送
2011	46	32	4	9	1
2012	33	25	4	3	1
2013	26	20	1	5	0
2014	36	25	3	6	2
2015	36	29	2	5	0
2016	34	26	1	4	3
2017	47	41	1	5	0

## 9) 新生児用救急車の出動先（産科医療施設）

地域	出生場所	回数
別府市	松岡産婦人科	4
	岩永レディースクリニック	11
	あおい産婦人科	16
杵築市	くりやまレディースクリニック	5
	みやうちウイメンズクリニック	6
宇佐市	宇佐レディースクリニック	0
	佐藤レディースクリニック	0
計		42

## 10) 死亡症例

なし

#### 4. 研究業績

##### 学会発表・講演

演題名	発表者	学会名	日付	場所
先天性腎奇形が 短期的な成長に及ぼす影響	武市実奈、秋本竜矢、梯公彦 佐藤大祐、古賀寛史	第 101 回日本小児科学会 大分地方会	2017.3.5	大分
胃 Plexiform angiomyxoid myofibroblastic tumor の女兒例	深澤光晴、碓航太、竹本竜一 米元耕輔、古賀寛史、他	第 102 回日本小児科学会 大分地方会	2017.7.2	大分
小児領域における在宅医療体制構築に 向けた診療看護師の活動報告	菅谷愛美	第 3 回日本 NP 学会 学術集会	2017.11.25	千葉
地域小児科センターにおける 診療看護師の看護実践	菅谷愛美	日本医療マネジメント学会 第 16 回九州・山口連合大会	2017.12.1	大分
当院における先天性難聴の 遺伝子解析	若林愛海、渡部貴秀、米元耕輔 竹本竜一、深澤光晴、古賀寛史	第 103 回日本小児科学会 大分地方会	2017.12.3	大分
小児救急要請判定基準の 有用性評価	碓航太、米元耕輔、竹本竜一 深澤光晴、古賀寛史	第 103 回日本小児科学会 大分地方会	2017.12.3	大分
先天性難聴の基礎知識	古賀寛史	第 103 回日本小児科学会 大分地方会	2017.12.3	大分

##### 論文・著書

題名	筆者	誌名	年	巻(号)	ページ
小児肺炎マイコプラズマ下気道感染症 における抗菌薬の臨床的有効性	梯公彦、古賀寛史	小児科臨床	2017	70 (4)	525-32
<i>Streptococcus gallolyticus</i> 敗血症の 新生児死亡例	東加奈子、古賀寛史	日本小児科学会雑誌	2017	121(5)	869-73
日本における小児嚢胞性線維症の 臨床的特徴	佐藤大祐、古賀寛史	日本小児科学会雑誌	2017	121(7)	1173-8
当院における 先天性難聴の遺伝子解析	若林愛海、古賀寛史	小児科臨床		(in press)	
後期早産および正期産における組織学的 絨毛膜羊膜炎が母児に及ぼす短期的影響	西林隼人、古賀寛史	日本周産期・新生児 医学会雑誌		(in press)	
Clinical characteristics of urethral prolapse in Japanese children	Ninomiya T, Koga H	Pediatrics International	2017	59(5)	578-82
Clinical epidemiology and treatment of febrile and afebrile convulsions with mild gastroenteritis: a multicenter study	Higuchi Y, Kubo T, Mitsuhashi T, et al.	Pediatric Neurology	2017	67	78-84

#### 4. 総評

##### 1) 2017 年の所感

地域住民の方々、地域の産科・小児科を始め、多くの医療機関の皆様のご支援のおかげで一年間の診療を全うすることができました。毎年のことながら心より感謝申し上げます。少子高齢化と財政問題によって医療を取り巻く環境は厳しくなっており、適正な医療を提供していても医療収支が確保しにくい状況が生じつつあります。当院小児科は大分県東部地域で唯一の地域小児科センター・地域周産期母子医療センターであり、維持困難となれば地域の小児救急医療、周産期医療に与える影響は大きいと、難しい状況ではありますが果たすべき役割を努めていく所存です。求められる役割は、第一に小児・周産期分野で良質な医療を提供すること、第二に地域医療を持続可能なものとするべく大分県内の小児科志望医を増やすこと、第三に小児科志望してくれた若い医師のキャリア形成のために小児科専門医取得に必要な臨床・研究業績を与えることだと考えます。そのための持続的な研究費獲得も必要です。大分県は自然豊かで魅力的な土地です。地域医療に貢献してくれる若い医師が増えることを期待します。

##### 【臨床】

入院数は近年、微増傾向にとどまりますが、冬季に感染症患者が増加する従来の季節性がなくなった印象です。さらに救急搬送数が年々増加しつつあり、全国的な傾向と一致しています。在胎 34 週以下の院外出生・新生児搬送を 3 例認め、事後検討で母体搬送できたと考えられる症例も含まれたことが問題でした。当院の NICU は 2010 年以降、在胎 27 週以上を早産の受け入れ基準としてきましたが、8 年間で早期新生児死亡 0 例、後期新生児死亡 1 例の臨床成績でした。今後は在胎 26 週以上を早産の受け入れ基準として、これまでよりも若干ではありますが地域医療への貢献範囲を広げることとしました。

##### 【研究】

現在、国際臨床治験が 1 件、国立病院機構の共同研究が 4 件進行中です。当科のスタッフは、少なくとも 1 年間勤務している間に 1 本の研究業績を残すことを目標としています。

##### 【教育】

研修施設として当院を選択してくれる初期研修医が増えており、うれしく思います。また当院で初期研修後に小児科を志す医師が出ていることも励みとなっています。各医師の希望が叶った進路志望が第一ですが、小児医療の魅力を感じてもらえるような研修指導ができればと思っております。

##### 2) 2018 年の目標

臨床、研究、教育のいずれも評価に耐えうる実績としては数値を残す必要があると考えます。各種成績を形としてお示しすることで皆様からお叱りを受けることのないように尽力する所存です。

近隣の小児・産科施設のスタッフの方々には日頃よりご支援、ご配慮をいただき感謝しております。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

医療機関からの外来受診、入院、新生児搬送などのご依頼は

(平日、日勤帯) TEL 0977-67-1111 → 小児科外来 (小児)、内線 8126 (古賀直通) (新生児搬送)  
(夜間休日) TEL 0977-67-1111 (代表経由で NICU 当直医) まで よろしくお願い致します。

国立病院機構 別府医療センター 小児科 古賀寛史

E-mail: [sakuraliberty@beppu2.hosp.go.jp](mailto:sakuraliberty@beppu2.hosp.go.jp)